

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102836		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	そんぼの家 グループホーム 岡山平井		
所在地	岡山市中区平井3丁目1066-2		
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 30 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosvCd=3370102836-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 7 月 6 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフの経験も豊富であり、入居者様お一人お一人にとって良質な住まいとなるよう心を配った支援を行っています。また、眠りスキャンや介護支援システムなどICT機器の導入も行っており、ハードの面からもご入居者様の生活を支援しております。また隣接する特定施設と消防訓練や防災訓練、緊急対応時の連絡確認等行い何かあった際の協力体制を築いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

14年のキャリアを持つ管理者は、新年度から就任し、事業所へも初めて配属され、この3ヶ月足らずで、利用者や家族と職員と信頼関係を構築した。それは、職員も含めて新体制の中、『人間尊重』の理念を心に刻んだ人たちが一点に集まったからであろう。管理者は、職員と一丸となって、利用者一人ひとりにマッチできるように、日々の申送りを地道に積み重ねて、個性性を重視した関わりを活かしていた。また、ゲートキーパー役のベテラン職員が管理者の助けとなって、風通しの良い職場の一役を買っていた。コロナ時代となり、事業所の運営理念たる『良質な住まい』を提供する事で、いち早く取り入れた法人専門チャンネルのon-line講師が、今や、みんなの馴染みの人になっている。ホームでは、何かある毎に、職員が「私と一緒にお茶でもしませんか～」と気易い口調で語り、リビングや居室で利用者と肩を並べて寄り添ったことで、心がふれあう時間が静かに流れていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループの経営理念や行動指針を各職員に配布し、携帯するようにしている。行動指針を実行するため、カスタムカンファレンスの実施や研修を行っている。	理念をリビングに掲示し、また、全従業員が理念を書いてあるカードを携帯している。理念を浸透させるために、大きく3つの研修や振り返りの場(毎月・毎週・他、管理者用)で構成され、職能・役職の立場で、理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり、交流などの機会はほぼなくなっている。	法人が、on-line上で専門チャンネルを持っていて、入居者は有料、無料のコンテンツから文化・趣味・運動等の分野から選択して、思い思いの講師と繋がって、施設内で活動的に過ごしている。リアルでは、近所の住人が、敷地内の土筆や花を採ったり、愛でたりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して事業所の取り組みや状況の情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直接意見をいただく機会は減ってしまったが、感染症の注意喚起などの情報をいただき、共有を行っている。	書面を郵送する形式で、隔月で開催を継続。町内会長・民生委員・地域包括・事業者指導課・代表家族のメンバーは、分割的に開催しながら、毎月、家族との面会・電話・メッセージで情報交換しており、現状に満足して頂いている。	時には、書面を持参して、face to faceの関係性を創っていったら如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に資料の配布を行い、感染症の注意喚起などご協力いただいている。	窓口は、今年度着任した管理者で、その上の役職であるホーム長と一緒に、市町村と連携している。市からは、最新情報がメールで送られ、網羅して共有し、事業所内で周知させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にマニュアルの確認を行っており、別に研修も行っている。玄関は施錠しているが、希望時は対応するよう心掛けている。	身体拘束はしていない。年間研修計画に基づいて、年4回、マニュアルに添った研修が行われる。昨今は、スピーチロックに関する事柄が多い。日頃、目の離しづらい利用者には、今も昔も、その方にマッチした関わり方を、送りで地道に積み重ねて、個性を重視した関わりをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にマニュアルの確認を行っており、別に研修も行っている。通報窓口も掲示し、早期発見に努め、不適切なケアにならないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関しては、研修等で学ぶ機会を設けている。成年後見制度については、必要な際に制度のご案内・説明などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、不安や不明点がないか確認している。内容により交渉を行い、納得を得るよう努めている。ご署名は、重度な障害以外の方は本人様にいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や運営推進会議などを通して聞き取りの機会を設けている。	近所のカフェからかき氷をテイクアウトしたり、入居者が家族に会いたいと言えば、出来るだけ早く予約を入れて頂ける様に段取りを組んだりしている。おもてなしの考えから、個室面会を計らうも、その方の様子から、気軽な窓越し面会が良いのでは？と察してヒットさせるなど、気を配っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通報相談窓口の設置やHappinessプロジェクトなどを通して意見を挙げやすい環境を整備している。また、個別面談を行うなど職員とのコミュニケーションを図るように努めている。	職員への評価員の聞き取りに、皆「ここが楽しい」と返ってきた。ホーム長が行う個別面談とは別に、永年勤続のスタッフさんの所には、役職を問わず、自然と利用者や職員の相談が集まって、いつの間にか解決しているといった様な、風通しの良い職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け職員が向上心を持って働く事ができるよう努めている。勤務状況に無理がないよう定期的な有給取得できるよう状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア別の研修を行っており、介護の知識や技術を習得できるようにしている。また、施設内外研修にて参加したいと思うような研修の提案を行い、やりがいに繋がるような働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集合研修での交流やZoomなどを用いた研修を行い、意見交換やグループワーク等を行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様にご協力頂きながら、ご本人様の生活暦を把握し、何度かお話し安心して話してくれるよう、少しずつ進める関係作りに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にご不安に思われている事をいろいろな視点で聞き取り察しながら、ご意見をいただきお答えする事での信頼関係作りにも努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様にとって、今一番必要な援助とは何か、実際に本人様の状態を観察し、聞き取り内容と合わせて、障害を負う前の生活を基本とし見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にとって大切な事、思い入れのあること、こだわりのあること、それらをしっかり把握した上で接する。定期的に援助内容について見直しを行い、過剰な援助なっていないか、援助が足りないところはないか確認を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前の様に頻繁に会いに来ていただくことなどは難しくなっているが、面会を行ったり、web面談を行うなどできるだけコミュニケーションが取れるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接の交流などは難しくなっているが電話など非接触の形で少しでもつながっていられるよう努めている。	法人専門チャンネルのon-line講師は、コロナ時代の馴染みの人になった。廊下で繋がっている隣の施設とは、交流が深まり、今や、馴染みの関係となっている。駐車場に咲く花や土筆を愛でに来られる近所の方や、出入り業者さんとは、以前からの馴染みで、遠越に挨拶や笑顔が交わされる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活のご様子の中から関係性を観察し、席の配置の配慮やアクティビティの種類など共に楽しめる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も退去先へ訪問したり、お電話で近況をうかがったりしている。お茶を飲みに寄って頂くなど、これからもいつでも気軽に来訪して頂くようお願いさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方にとって過ごしやすい環境とはどのような事なのか、生活歴などからの把握に加え、関わる中での本人様の反応などと合わせて観察し、私がこの方の立場ならと自分に置き換えて考えてみるなどを取り入れている。	不安にされてる方には、「どうされましたか〜」「お話をさせて頂けませんか〜」と言葉をかけ、言葉を発せない方には寄り添って手を握って、言葉をかける。そうして、「お茶をご一緒しませんか〜」と投げかけて、皆の意向を、細やかに把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、生活の場や大切に思われている所や物など、事前に写真を撮ったりご用意いただいたりし、ご入居後も継続的な情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動観察の中から、できるADLとしているADLの話し合い、定期的に必要な援助の見直しなどを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様にとって必要な援助に対し、ご家族様にも無理がないよう、ご協力いただけるところは現状との兼ね合いを考慮しながら、カンファレンスで話し合い出来る事を伸ばしていけるような介護計画を作成している。	入居時に作成したプランは、特段の事がなければ半年後に見直す。この間、2週間毎に全利用者のカンファレンスが行われ、必要に応じて、医療職を交えてモニタリングや担当者会議に移行され、ケアプランの原案に網羅される。これが清書され、家族に交付されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録には、その時の様子や発言内容など細かい内容を記載、全体の申し送りにはその日・一週間気をつけることを記載し情報共有しながら一週間ごとに見直し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すぐに対応可能なものはすぐに対応している。すぐに対応できないものに関しては交渉も交え外部資源などの活用を考えながら取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議などを通して施設の現状など情報発信を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期訪問診療を受けていただいている方、その他で希望される方、ご本人様とご家族様のご要望を大切に選んで頂いている。	入居時にかかりつけ医を選択していただいているが、殆どの方が協力医へ転院される。他科へは、原則、家族が通院を介助するが、専門性や状況に応じて、職員が介助している。協力医は24時間対応。どの医療職の方とも、何でも相談出来る関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週3日以上勤務しており、日常的に体調管理を行い、様子の変化などこまめに情報を伝え特変の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、医療機関へ情報提供を行っている。入院中はお見舞いに伺い看護師様やソーシャルワーカー様と連絡をとり相談するよう努めている。また、退院に向けご家族様とも連携をし、退院カンファレンスが開催される際には参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様、主治医と話し合いの場を設けるようにしている。体調変化の大きい時には家族様にも往診に立ち会っていただき、直接主治医との話し合いの場を設け情報を共有できるようチーム全体で看取りまでの支援に努めている。	看取りを行っており、キャリア抱負の職員が多年層に揃っている。入所時の重要事項説明で、ホームで出来る事、医療機関等へ移って頂く場合の事等を理解して頂くが、ゆれる家族の想いに添って、希望されれば、ホームで看取りをしている。重度化の研修を年1回以上行い、重度化特例として、居室での面会が許可している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて緊急時の対応を学んでいる。緊急対応マニュアルを作成し適切な対応が出来るようにしている。また職場内にも掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防避難訓練を行っている。消火器の設置場所や気をつけることを普段から周知できるよう、点検日を行っている。災害時用の備蓄もあり地域の方にも呼びかけている。災害時マニュアルの周知も行なっている。	年2回、火災と地震と水害と津波の避難訓練を、マニュアルに沿って、内容に合わせて昼と夜を組み合わせて利用者と訓練している。緊急連絡網とハザードマップと避難経路は事務所に掲示されている。備蓄は、食材と水は、3日分程度。他には、簡易トイレ、衛生材料等が完備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修を行い、その重要性などを確認するとともに、日々の目標として掲げ意識して行うよう心掛けている。	接遇マナーの研修は、on-lineで年1回開催。『価値の引き下げとは？』『無意識で発せられる言葉』など、振り返りが行われる。管理者は、利用者への日々の細かな言動が、『利用者が大事されているな』と感じられる事だろうから、そこを大切に關わって欲しいと、スタッフに伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やなにげない言葉の中から、ご本人様の希望を汲み取り表出しやすい働きかけが出来るよう、細かな観察や職員同士の細かな情報収集に力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を重視し、その方一人一人の生活を重視し、個別のケアを大切にしている。また、スケジュールの中においても、その時々に合わせて対応を心がけ無理な援助は行わず、時間をずらすなどし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や身だしなみには気をつけ、どんな色や格好がお好きなのか、それぞれの好みを聞き取りや生活歴や持ち物などの中からその方を知った上で援助できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食にも、季節のメニューやご当地メニューを入れるなど「おいしく食べる」を実践できるよう心掛けている。好みの把握をし提供することで楽しみにつなげている。食前後にテーブル拭きや床の掃除などお手伝いをして下さる方もある。	食事とおやつは、ケータリング形式。全国のご当地と行事のメニューを提供して、利用者一人ひとりに合わせ、ミキサー食などの食事形態や甘口辛口など味付けにも工夫をしている。菜園の野菜作りを、利用者が職員に指導して、実った野菜を職員が美味しくいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の足りない方には水分やカロリーを考慮し特別食や捕食の検討や好物の把握をし家族様へご提案したりし対応している。また、その方の嚥下状態や好みに合わせ食事形態やお好きな食べ物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせた食事前後の口腔ケアの援助を行っている。又、使用道具も個々に合わせたもの口腔内保湿にも気をつけ検討している。義歯の不具合や嚥下不要時は訪問歯科との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使わず、その方の排泄状況の把握に努めている。また、スキントラブルにも注意し、容量の違うものを使い分けることで、不快感を少なくなるよう気を配っている。トイレ内の環境など自立した排泄ができるよう努めている。	日中はトイレ、夜は、安眠を優先して、ポータブルトイレとオムツを使用している。また、ポータブルトイレの活用は、行きたい時にトイレに行ける事を優先する場合に用いている。排泄で失敗されたら、そっと居室へお連れして、和むような言葉をかけながら身ざれいになって頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の種類について主治医と相談しながら、個人の状態に合わせた対応をしている。ラジオ体操など適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調などに合わせ時間や曜日を決めさせていただいている方もある。入浴予定日に希望されない時は時間や日を改めるようにしている。	入浴は週2回。新体制となって、お風呂タイムを今以上に楽しんで頂こうと、時間帯や回数を工夫したり、髪を乾かすドライヤータイムが、美容院で過ごしているかの様な、癒しの時間になっている、嫌がる方には、時間や日を改めたり、職員が代わって関わったりして、気持ちに配慮している。	新体制となって、お風呂タイムを今以上に楽しんで頂こうと取り組みだされている事が伝わって来ました。これが、早く、構築される事に期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間の様子を把握した上でその方の体調を見ながら、日中居眠りや疲労感が見られる時はこちらから声をかけ休んでいただくようにしている。眠りスキャンを導入しご入居者様の眠りの状態の把握にも努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、薬剤師の方に同席頂き看護職員介護職員も話し合いに参加し薬の変更など責任を持って把握し申し送るようにしている。内服に関する能力評価を行い個々に沿った形状や援助の方法も細かく決め配薬手順も十分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前習慣としてされていた事、得意だった事を生活の中で行っていただけるよう働きかけている方もある。その他、本人様の希望を伺いながら時間を設け取りいれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合わせて散歩などの機会は設けている。外出に関してはコロナ禍ということもあり、積極的に促すことは行っていない。	広い駐車場に散歩に出かけたり、庭木の花に水を撒いたり、天気を調べて来て頂いたりしている。また、隣の施設の顔なじみの方のところまで、お出かけを楽しんでいる。今日は、恒例の市立図書館から移動図書館の来館日であった。お出かけが出来ない方を含めて、on-lineの旅チャンネルは、楽しみとして浸透している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様がお金を持つ場合のルール等を定め、納得の上で行うようにしている。使用する際には立て替えを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様からご要望の際は電話を取次ぐ援助させて頂いている。日々の様子など、ご来訪時やお電話などで報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じ食事時の雑音を消したり、それ以外の日常においても職員の歩くスピードや、話声のトーンなど援助の仕方にも配慮するよう心がけている。必要以上のものは片付け掃除しやすい、転倒などにも配慮した環境作りに努めている。	リビングは清潔に保たれており、空調や湿度も適切。元気よくラジオ体操をする利用者の姿が、丁度窺えた。on-lineを活かして、頭の体操や癒しの動画を見たり、塗り絵などをしたりする事が利用者の楽しみとなっている。七夕の短冊を簾に飾る事で斬新なしつらえとなって、季節感も味わえるようになっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの位置など、ご要望に配慮しながら変更している。パーテーションで区切るなどお一人で過ごしたい方へも配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前まで使用していた家具をなるべく用意していただくようお願いしている。そのことについて良い効果があった事例もお伝えしたりし心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けは、洗面台、クローゼット、エアコンで、週1回、布団乾燥機で、ふっかふっかのおふとんを提供している。家族の写真や、お孫さんの作った折り紙の作品等が飾られ、家族を身近に感じる居室となっている。居室とリビングとは、同じ湿度と温度に設定されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に分かりやすい方法で伝わるよう、使用されている居室の把握や表示内容にも個人に合わせた表現にしている。		